

1. 件 名：新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（東海第二（971））

2. 日 時：平成30年5月22日 10時00分～12時00分
15時00分～19時00分

3. 場 所：原子力規制庁 9階D会議室

4. 出席者

原子力規制庁：

（新基準適合性審査チーム）

吉村上席安全審査官、津金主任安全審査官、植木主任安全審査官、千明主任安全審査官、
津金主任安全審査官、照井安全審査官、日南川安全審査官、竹内技術参与、山浦技術参与、
堀野技術参与

事業者：

日本原子力発電株式会社：開発計画室 室長代理 他17名

東北電力株式会社：原子力部(原子力運営) 担当 他3名

東京電力ホールディングス株式会社：原子力設備管理部 建築技術グループ 副長 他2名

中部電力株式会社：原子力土建部 設備管理グループ 副長 他1名

北陸電力株式会社：土木部 耐震建築技術チーム 副課長

中国電力株式会社：電源事業本部（耐震建築） 担当 他2名

電源開発株式会社：原子力技術部 設備技術室 担当 他1名

5. 要旨

(1) 日本原子力発電から、5月21日の提出資料に基づき、東海第二発電所の工事計画認可申請に係る耐震性に関する説明書および津波への配慮に関する説明書について説明があった。

(2) 原子力規制庁から主に以下の点について指摘を行った。

＜使用済燃料プールの耐震性評価＞

- 荷重の組合せについて、先行機のABWRとの比較で検討しているが、当該のプラントとの違いを説明し、荷重組合せの要否の理由を整理して提示すること。

＜応力解析におけるモデル化、境界条件及び拘束条件の考え方＞

＜原子炉建屋基盤及び原子炉格納容器底部コンクリートマット＞

- 支持地盤を表現するギャップ要素について、詳細な説明を検討し整理して提示すること。また、ギャップ要素の鉛直剛性 K_v と、回転剛性 K_r の使い分けの理由を整理して提示すること。なお、本件と同様に、他の対象施設についても地盤ばねの評価について再検討し、整理して提示すること。

＜原子炉建屋原子炉棟（屋根トラス）＞

- 屋根スラブを応力解析のモデル化からはずした理由について、整理して提示すること。

＜使用済燃料プール＞

- FEMの要素分割の考え方を、整理して提示すること。（共通事項）

- シェル壁に温度荷重を考慮しているか確認し、整理して提示すること。

<止水機構に関する補足説明>

- 3次元動的解析の実証試験モデルと実機モデルとの検証に関し、それぞれの解析結果による止水板の浮き上がりの模式図を分かりやすく修正するとともに、検証結果の考察を充実させて提示すること。
- 実証試験結果については、確認する機能等を踏まえ、整理して提示すること。
- 実証試験結果と3次元動的解析結果（実証試験モデル）の時刻歴変位グラフについて、それぞれのグラフの軸のスケールを統一して提示すること。

<津波への配慮が必要な施設の強度計算の方針>

- 浸水防止蓋に適用するとしている「ダム・堰施設技術基準」について、同様の構造の浸水防止蓋であっても取付け箇所の変異により適用する規格が異なることも含め適用性を整理して提示すること。
- フロート型の逆止弁の説明図についてフロートガイドの本数を示すこと。
- ガスト影響係数をどのように考慮するのか整理して提示すること。
- 積雪荷重の算出方法について、平均的な積雪荷重を与えるための係数の考え方を含め、整理して提示すること。
- 浸水防止蓋に適用する設計・建設規格の機種区分について整理して提示すること。

(3) 日本原子力発電から、本日の指摘等について了解した旨の回答があった。

6. その他

提出資料：

なし